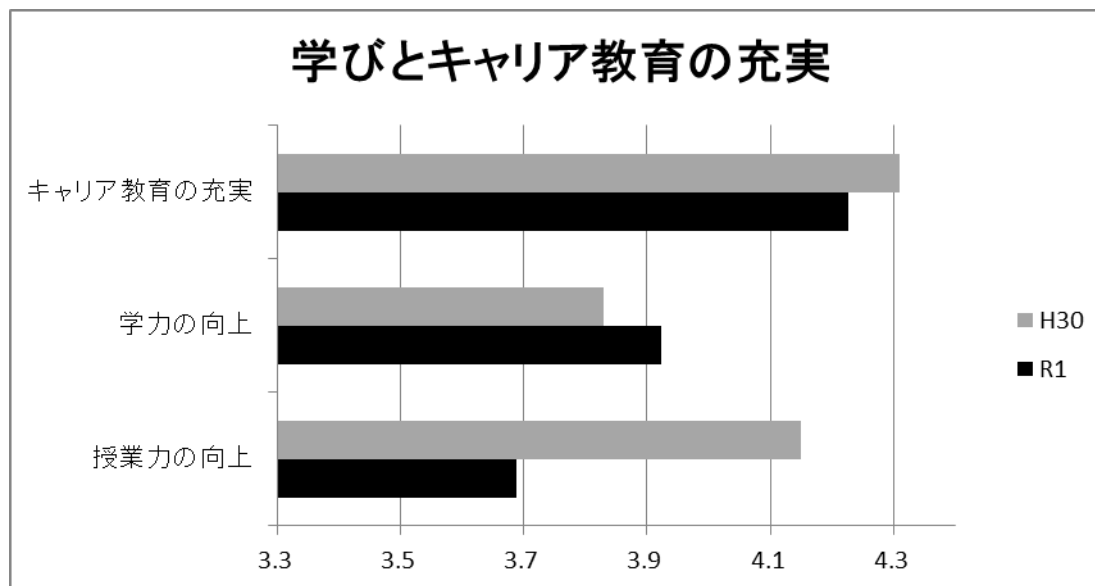


令和元年度 有馬高等学校 学校評価

— 「自己評価」結果報告と分析・考察等 —

重点目標 1



【自己評価の分析・考察および今後の改善策】

〈総合学科部〉

「産業社会と人間」を中心とした生き方を考える授業の中で、人生のキャリアデザインを主体的に考え、コミュニケーション能力を向上させることを目標とした取り組みを実践している。今年度も上級学校訪問や職業人インタビュー、インタビュー講座やスピーチ講座等、多方面からの協力を得て生徒たちの成長を感じることができた。

今年度は、新学習指導要領に向けて、「総合的な学習の時間」に改訂を加えたため、自分の将来や自分自身について考える時間が削減された。3年間の指導スケジュールの中で自己を見つめる時間を確保することが現時点の課題である。

〈農業部〉

キャリア教育を推進するうえで、阪神農業改良普及センターとの連携は非常に重要である。今年度は担当者が交代されたが、綿密に連絡を交わすことで全ての計画を無事に終えることができた。また、JAとの連携を強化することにより、生徒作品の展示やイベントへの参加など、生徒の学習成果発表の場として機会が増えることは意義がある。JAに内定した生徒もあり、今後とも有効な連携関係を築いていきたい。資格取得や農家研修、海外研修への推奨により、多くの生徒が実践的な学習に取り組めた。

〈進路指導部〉

進路講演会や各ガイダンスは予定通り実施できた。「国公立・難関私大講座」は元予備校講師から受験生の現実を伝えていただき、認識の甘い生徒には良い刺激になったと考えている。推薦入試対策として今年度も外部講師を活用した「看護医療面接講座」を実施し、過去最高だった前年には及ばないが順調に合格者が出ているところである。

前年度からの課題であった推薦入試等の志望理由書について、新たに3月・7月と講演を行ったが改善にはつながらなかった。書き方の完全なマニュアルの必要性を感じるとともに、改めて大学選びや比較の視点について指導していきたい。

〈教務部〉（学力向上委員会・教育課程委員会）

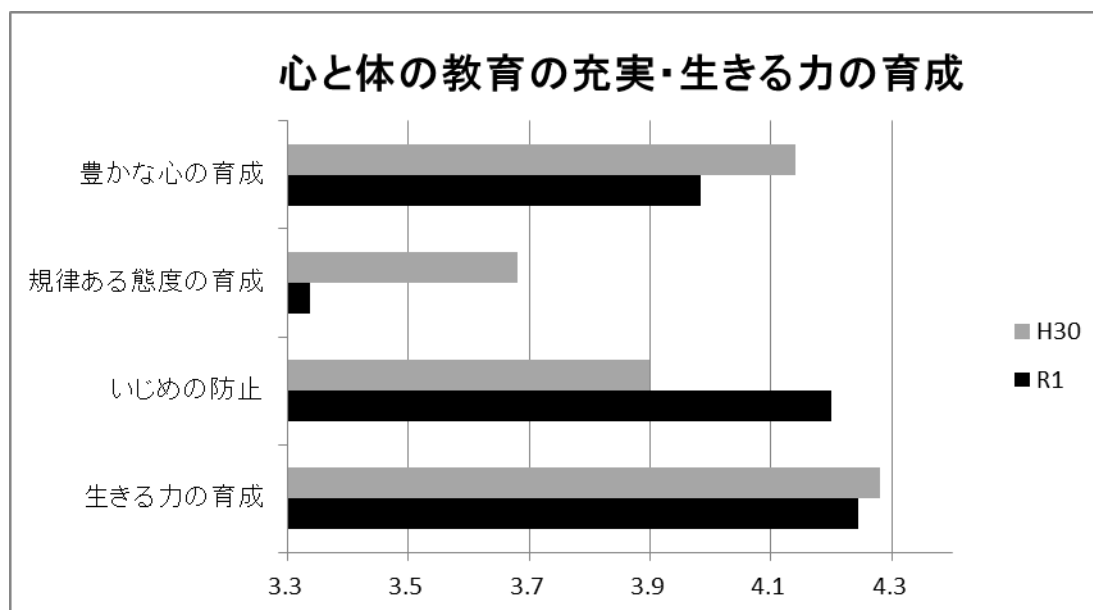
授業力の向上を目指した年2回の公開授業週間では、研究授業を中心に教科内外を問わず意見の交換ができていられると思われる。教科外の研究授業をグループ分けし割り当てて見学する11月の取り組みは県教育委員会の訪問指導でも評価された。今年は行事と重なり、授業研究会が持ちにくいグループがあったので日程の調整に工夫が必要である。普段の授業から活発な意見が交換できる状況を目指したい。

教育課程については、人と自然科と総合学科それぞれの特色に基づき教育課程を検討した。令和2年度開講科目については、現状の生徒・職員の定数も勘案しながら、少人数制授業など、多くの講座が開講できるように考えた。

人と自然科の教育課程については、英語科について基礎基本の定着と応用力の育成、より高い進路目標への対応を図り、令和2年度入学生及び平成31年度入学生の2学年以降の科目の変更・配置の変更を行った。

新カリキュラムの実施が近づき、本校の教育目標に対応できる本校らしい教育課程を検討している。教科・科目の特性や本校の特性、本校に期待されることなど様々な観点からバランスよく科目を配置する必要がある。また、クラス減に伴う生徒数の減少も予想され、個々の進路や興味関心に対して教育課程上すべてに対応することが困難になっていくことも検討に入れる必要がある。よりよい教育課程を創っていくため、各教科・部署の力を結集しながら見通しの良い議論をしていきたい。

重点目標 2



【自己評価の分析・考察および今後の改善策】

〈生徒指導部〉

全校生徒は自主的・積極的に学校行事・委員会活動に取り組んでいる。

生徒会本部への仕事の偏りが大きいように感じる。本部の人数を増やすなどをして、組織的・計画的に活動できるように工夫をしたい。

〈総務・広報部〉（人権教育・国際理解教育）

人権教育については、現在(12月)のところ、年間計画通りに人権 HR や講演会を実施することができている。実施にあたっては、事前研修の機会を設け、チームティーチングを行うなど、全職員で人権教育に取り組む本校のスタイルが定着している。3年次の学習内容(就職差別等)が量的に多いのではないかと指摘を受けて、指導案や内容の見直し、精選を検討したい。

国際理解教育に係る評価は昨年の 4.1 を維持している。例年、マレーシアとの交流の年はオーストラリアとの交流の年に比べ、生徒の関心も低く短期研修への応募も少ないが、今年度は募集人数を大きく上回る応募があった。研修参加生徒の経験を報告会や広告冊子を通じて多くの生徒と共有できたこと、また受け入れ時に多くの先生方の協力のもと、短期研修に参加できなかった生徒たちも授業を通して留学生と交流できたことなどが、マレーシアへの関心を高めた一因になったと考えられる。来年度の交流はオーストラリアである。引き続き、大切な学校行事として周知し、多くの職員で関わっていただけるようにしたい。

〈保健相談部〉

キャンパスカウンセラーの 2 名体制が維持され、有効に活用できた。親子間の難しい事例にカウンセラーの協力を得て対応することができた。

年 2 回の職員研修会を実施した。職員の面談力を高める内容を中心とした。今後も内容と質の高い研修会を計画し、またその成果も評価していくことが課題である。

定期的に情報交換会が設定され、各部署が意見交換することで視野が広がり問題解決の糸口に近づくことができたと考える。今後も早期から校内組織が連携し、生徒の心を育てる対応を検討していく必要がある。

〈教務部〉

授業を行う上で生徒の授業の取り組み姿勢は大きな問題はなく、まじめに学習できるようになってきているが、提出物の期限遅れなどの不十分なところもまだ残っている。持たせている能率手帳については、アンケート結果から、学年が上がるほどうまく使えるようになり計画的に行動ができていく傾向が見て取れる。受身的な学習姿勢から脱却し、自らの進路に照らし合わせて計画を立てて学習に向かうためのアイテムとしてうまく活用させたい。

〈生徒指導部・学年〉

目標が高かった。(生指)

面談を取り入れた遅刻指導を実施する計画である。(生指)

学年による遅刻指導を実施することで、遅刻者を減らせることにつながったと考えられる。しかし、一部が常習化しており、保護者面談を行ったりしたが、改善への手立てが難しいことが課題である。(学年)

〈いじめ対策委員会〉

アンケートの見直しを行った、質問数を減らすことで、時間短縮、面談が必要な場合深く質問をしやすいように、導入の質問にとどめる工夫をした。

昨年度末のいじめにつながる行為での、対応方法の報告が先生方への研修につながったのではないかと考える。

〈農業部〉

継続して取り組んでいるセミナーやチャレンジ教室により、生徒の主体性を育むことができおり、高い評価を得ることができている。担当者が交代した場合の引き継ぎが課題ではあるが、生徒の実情に合った内容に変更していくことも必要である。農業クラブの大会では、意見発表で全国大会へ出場し、農業鑑定では全国大会で優秀賞を受賞することができ、日頃の学習成果が発揮できた。2年後の全国大会の事務局運営に向けて、今年度より生徒実行委員会の立ち上げや全国大会の視察など、新たな動きが学科の運営にどのように影響するかを注視しながら調整していきたい。

〈総合学科部〉

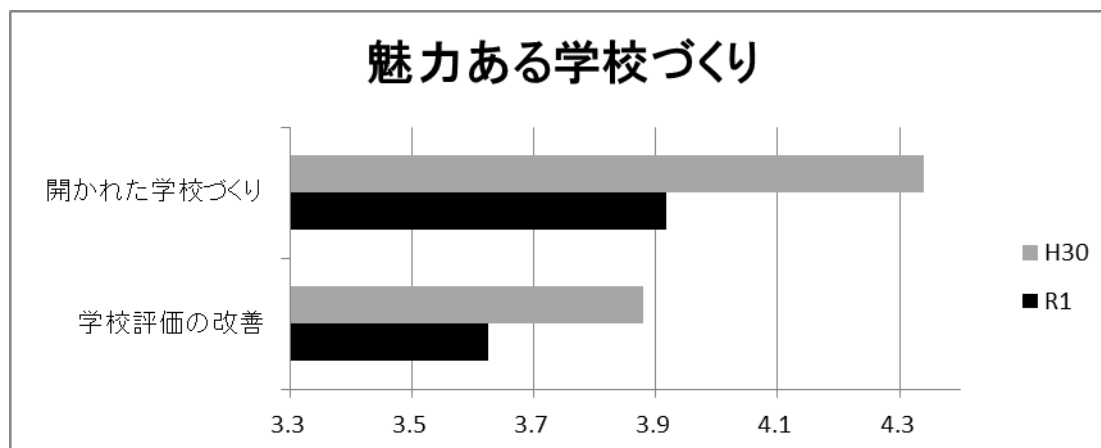
「産業社会と人間」を中心とした生き方を考える授業の中で、コミュニケーション能力を向上させる取り組みや各種発表会といった授業実践を通して、多くの生徒が主体的に行動する力を伸ばしており、「生きる力」につながっている。3年次生の授業成果や進路選択において、総合学科の取り組みが生徒の成長の土台となっていることが数多く見られ、嬉しく感じている。

新学習指導要領の重点目標を視野に入れて「自分で考え行動する」態度を更に育てていきたい。そして全ての生徒に自分の力で未来を切り拓いていく力を身に付けさせたい。

〈進路指導部〉

2年生が夏休みに進路希望に沿った体験活動に参加したが、進路実現に向けてある程度の指針になったと感じている。専門学校が実施している「ときめき仕事体験」は県が推奨しているプログラムでもあり次年度も参加を促したい。課題としてはそこから主体的な行動に移すという部分で、自分の将来のためでなく宿題という認識で参加した者も少なくなかったと感じているのでそこを改善していきたい。

重点目標 3



【自己評価の分析・考察および今後の改善策】

〈総務・広報部 HP・情報委員会〉

本校保護者を対象とした行事・授業の公開及び中学校関係者へのオープンハイスクール、WEB サイトでの情報発信について、概ね高い評価を得た(4.3)。12月1日時点で両学科とも本校受験希望者が募集定員を上回っていることについては、長年にわたる各部署や学年団、学校全体の教育活動が地域や中学校に理解され、評価されるようになってきたということであろう。

今後は特に、令和2年2月1日実施予定の「学習活動発表会」に多くの方々に参加していただけるように広報活動に努める。

【HP情報委員会】

ブログなどを活用した教育活動情報の発信を活性化させるために、全教職員分のユーザーIDを発行し、多くの教職員の協力のもと、学習活動の成果や学校行事、更にはクラブ活動の実績報告など、学校生活の様々な場面の情報発信に努めた。しかし本年度の評価は4.3→3.5に下降した。

原因として考えられることは、①評価項目の設定で「B：5割以上の職員の利用」としているため、昨年度の学校評価の分析結果である、50.9%という実績を正確に反映したと考えられる。②本年度着任者のうち60.0%の職員が未投稿という結果に終わっている。着任者などへの具体的手順などを説明が不足していたと考えられる。

さらなる利用の向上を目指して、委員会からの情報伝達をスムーズに行える仕組みづくりと、着任者や未投稿者に対する手続きなどの説明を丁寧に行いたい。

〈学校評価委員会〉

昨年度の課題で挙がっていた評価の違いがわかりづらく、項目によって評価の差が生じるので評価しにくいという意見があった。今年度はできるだけ評価の基準を揃えられるように修正した。まだ一部の項目の評価がわかりづらいが、評価しやすかったという意見があった。来年度に向けては達成率で評価する方法を検討したい。